



●授業関連図書コーナー

初年次教育プログラム、専門教育科目等の一部の授業について、ぜひ読んでほしい図書のコーナーを設けました。カウンター前の壁面の書架にあります。

前期の授業では、4学部 18科目について、131タイトルの図書を備え付けています。いずれも先生方の推薦図書ですので、授業の理解のためにぜひ活用してください。

また、このコーナーには推薦図書だけでなく、様々な関連する情報を案内した「情報検索 Navi」シートも置いてありますので、あわせてご利用ください。



◆Contents◆

<トピックス>

展示：七色八雲

授業関連図書コーナー

たくさん名前ありがとう

まちなか大学祭で古書市

<お薦め図書>

「謎解きの英文法」

<つぶやきライム>

図書の選及入力

<雑誌の無料提供会>

愛称募集 締め切りしました

5月7日で締め切りしました。

たくさんの応募ありがとうございました。

どんな名前になるか、お楽しみに。



●館内展示 「七色八雲」

(法文学部芸術学演習成果発表会)

4月19日から1階入口の展示コーナーで、「七色八雲」と題した作品展示を行っています。法文学部言語文化学科で芸術学を学んでいる7人の学生さんたちの演習成果作品です。

小泉八雲の作品を題材に、各自が撮影した写真を組み合わせて本を作るという授業。プロ顔負けの素晴らしい作品が並び、また展示方法も工夫を凝らしており、ちょっとしたギャラリーのような雰囲気を醸し出しています。ぜひ覗いてみてください。



●まちなか大学祭協賛

「古本市」開催

5月16日(日)に、京店、殿町界隈で「まちなか大学祭」が開催されます。今年は第2回目で、昨年に引き続き古本市があります。(図書リユース市の春バージョンというところです)

昨年の会場は、県民会館横の駐車場でした。興味のある方は覗いてみてください。



4月からのブック★コンパスは「龍馬<以外>伝」を展示中です。

幕末、明治維新という先の見えない混乱の時代、この人たちがいなくなったら、今ごろ日本はどうなっていたんでしょうね。



<お薦め図書>

『謎解きの英文法:冠詞と名詞』 久野すすむ著

ある日、「趣味は何ですか?」とネイティブの方から英語で質問されたとします。「I read a book.」と答えれば、きっとそこから本についての会話が弾んでいくことでしょう。でもこの返答、文法的には間違いなのです。

英文法の中でも冠詞や名詞の区別は、日本人の私たちには理解するのが難しいものです。単数形と複数形、aとthe、anyとevery、whoとwhichなどなど、中学の頃から訳のわからないペアが次々とタグを組んで挑んできて、モヤモヤとした苦痛を味わってきました。もっと早く本書に出会い、それら単語の違いに明白な理由が隠れていることに気づいていたなら、文法を「おもしろい!」と思えていたかもしれません。

“John sees *every* visitor.” “John sees *any* visitor.”
のように、簡単な例文を比較しながら考え始めていくと、段階的にヒントを与えられるので、英語から遠ざかり気味になっている人にもわかりやすい一冊でしょう。語法を学習することはまさに“謎を解く”作業です。そして理解できた時の気持ちは、パズルや暗号が解け、霧がサッと消えるようなスッキリ感に似ています。

さて冒頭の答えですが…1冊の本のみを繰り返し読む読書家(?)と考えると納得ですよ。(F)

【835.2/KU48 初年次教育コーナー】

<つぶやきタイム(4)>

図書館の遡及入力やっています

図書館の仕事と言えば、カウンターでみなさんに貸出・返却をやっているイメージでしょうか。それも図書館の仕事の一つですが、私がやっているのは図書館の遡及入力です。

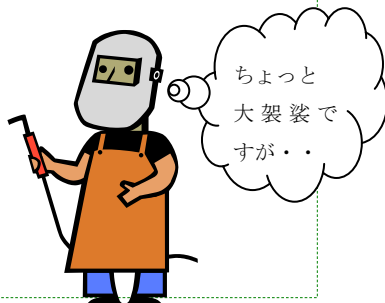
遡及とは、読んで字のごとく「過去にさかのぼる」こと、つまり図書館の目録が電子化される以前に受け入れた、まだ入力されていないものについて、書誌・所蔵データを入力し、蔵書目録データベースを作成することをいいます。

私達は研究室にある図書館の遡及を経て、今は図書館書庫4階にある旧制松山高高等学校(松高)・松江師範学校(師範)時代の図書館の遡及をやっています。とにかく古くて埃だらけなので、ちょっと油断するとすぐに喉をやられます。マスクと手袋、エプロンが必需品!服なんて、あっという間に真っ黒に汚れます。やり始めた頃は辞書などが多く、重いし、昔の革装は劣化しているのでポロポロ。「3Kだ~」と冗談を言っていたものです(笑)。でも、永井隆や平塚運一の直筆サイン本などが見つかったことがあり、そういう時は「やって良かった~!」と実感します。まさに、眠っていた宝物を掘り当てたような感覚(?)かなり地味な宝物ですが…。

これまで眠っていた図書館が、遡及入力によりOPACに反映され、検索時にヒットしていくんだなと思うと、まさに資料としての命を吹き込んでいる仕事なのです(ちょっと大袈裟ですが)。

松高はおおむね作業が終わり、今後は師範の図書館を入力していく予定です。またどんな本が発掘され、再び命が吹き込まれるのか、楽しみです。

(NAO)



まだ全部の図書館のデータ入力
が済んでないのね。書庫にはす
ごくたくさんの本があるから、
じっくり見て回ったらいい資料
が発見できるかもしれない。

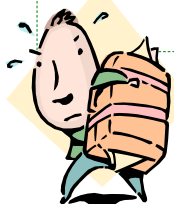


OPACで検索してヒットする
のは、こうして入力が続けてい
るからなんだね。大学では、古
い資料が必要な研究分野も多
いし。入力したデータは世界中か
らアクセスできて、島根大学に
あるってことがわかるんだね。



OPACのおかげで、資料を
探す手間は格段に良くなったけ
れど、実はこうして1冊1冊地
道な入力の積み重ねの結果なん
だよ。87万冊の図書館のうち78
万冊の図書館の入力が終わったの
で、もうじき島根大学にある図
書すべてが検索できるようにな
るんだよ。

資料を探すには、まずOPAC
を使えることが基本中の基本。
それができれば、いろいろな
データベースを使うのもそんなに
難しくなくなるよ。



4月27-28日の「雑誌無料提供会」ではたくさんの雑誌を持って帰ってもらうことができました。ありがとうございました。